

物語の日曜日 第一弾
あなたの物語
ボー・スターン・ブレイディ
2024年・9月・8日

評議会:

これから聖書について、そして私たち自身についてお話しします。物語。私たちはみな物語を持っており、聖書には物語が満ち溢れています。実際、私たちは聖書を教義、原則、神聖なもの、の巨大な参考書として見る場合があります。しかし実際には、聖書は66冊の本の図書館であり、それぞれに特定の視点、スタイル、物語があります。聖書には登場人物がたくさんいます。実際の物語を生きている実際の人間です。私は聖書を読み、物語の登場人物を証言台に立つ証人として思い浮かべるのが好きです。彼らは何かについて証言しています... 私たちが神を誤解している点、私たちがイエスを切実に必要としている理由、またはイエスの性格ややり方についてです。聖書の物語は、神の証拠と、私たちが生きている物語を捉え、私たちの世界で神の意志を解釈する必要があることの証拠で満ち溢れています。

物語の中には、人々がまだ雨を経験していなかった時代に、ノアが毎日働いて巨大な船を造り、大惨事から人々を救ったことなど、壮大な物語もあります。モーセのように、何十万人もの人々を奴隷状態から解放して荒野へと導いた物語もあります。しかし、より知られていない物語もあります。

民数記 13 章には、モーセが約束の地に偵察に 12 人の斥候を派遣した話が書かれています。聖書には、斥候の名前、出身部族、父親が記されています。斥候たちは全員戻ってきて、「ここはすごい！ 恵みと美しさと豊かさに満ちている。いい知らせだ」と言います。しかし、斥候のうち 10 人は、「でも、民は巨大で恐ろしいし、黙って立ち去るつもりはない」と言います。

カレブとヨシュアは、「だめだ！ 我々が占領しなければならない。この地は絶対に征服できる」と言います。

残りの男たちは: “そして彼らはその探った地のことを、イスラエルの人々に悪く言いふらして言った、「わたしたちが行き巡って探った地は、そこに住む者を滅ぼす地です。またその所でわたしたちが見た民はみな背の高い人々です。わたしたちはまたそこで、ネピリムから出たアナクの子孫ネピリムを見ました。わたしたちには自分が、いなごのように思われ、また彼らにも、そう見えたに違いありません。」”

民数記 13:32-33 口語訳

この物語は単なる物語ではありません。物語はイデオロギーを生み出します。私たちは自分の目にはバツタのようです...そして今や私たちの敵もそれに同調します。神はすでに彼らを勝利者と呼んでいましたが、敵と比べた経験から彼らは相続の資格を失いました。土地を偵察する物語は、彼らが自分自身、神、そして未来をどのように見るかを変えました。

私たちが生きる物語には、多くの意味があります。あなたの人生をあなたが書いている本だとしたら、それは自伝であり料理本でもあります。その両方です。あなたの自伝は、与えられた日々になんが起きたかです。しかし、それぞれの人の人生という本には、それらの経験から学んだ多くのレシピを説明する付録が隠されています。(クリフが私に買ってくれた料理本です。)あなたが生きてきたほぼすべての物語には、あなたが真実だと信じていることについてのサブストーリーまたはメタナラティブがあなたの中に埋め込まれています。

あなたの物語は、もっと適切な言葉が見つからないのですが、「レシピ」や公式でいっぱいです。これにこれを足すと、それになります。それは考え、感情、そしてそれらから導き出された結論です。それらはあなたにはほとんど見えませんが、あなたの本に含まれる物語や出来事と同じくらい重要です。お金、食べ物、仕事、友情、愛情、能力、愛に関する公式があります。おそらくほとんどは愛に関するものです。愛を得るために必要なことに関するレシピを生み出した物語は無数にあります。(私の姉は園芸が得意です。一度、家に来た人が皆、姉が小さな無名から溢れんばかりの美しさに育てた美しい植物を絶賛したので、部屋で泣いたことがあります。コリウスの中で泣くときは、その話には続きがあるのが分かります。私は末っ子でした。長い間、自分は無視されていると感じていました。目に見えず、才能もない。頭の中にはレシピが書かれていました。達成 = 受け入れられ、称賛されるというものでした。そのため、誰かが植物を気に入ってくれるたびに、「あなたには価値がない」と直接言われているように感じました。これはつまらないことで、私たちは皆それを知っています。しかし、これは現実でもあり、私たちは皆それを知っています。そして、私たちの本に載っている物語は一つのことですが、それらが作成したレシピの膨大な付録はまったく別のものです。そして、レシピが本に載っているからといって、たとえ多くの素晴らしい体験を表現した本であっても、それを使って作った料理がおいしいとは限りません。

イエスは私たちの物語を消すために来るのではなく、物語の意味を理解し、レシピを書き直すために来られます。彼らに聖なる救済をもたらすために。イエスは私たちの物語のせいで傷ついた私たちの心の傷を癒すために来られます。先週お話ししたように、私たちは戦いの中に生まれてきたからです。

先日、私がとても気に入った歌を聞きましたが、その歌詞の1つに「あなたは私の過去を葬った、私はもう戻らない」というのがありました。自由という点では、以前のような生活に戻る必要はないと私は信じていますが、実際、神の目的は私たちの過去を消し去ったり葬ったりすることではないと思います。神は私たちの物語を償い、そこに美と目的を織り込むために、そして私たちの魂にひどいレシピを書き込んだ神経経路を別の経路に導くためにイエスを遣わされたのだと思います。神は私たちが何を経験したかだけでなく、私たちの経験が私たちの考え方を良い方向にも悪い方向にも形作った方法にも関心があります。自由とは、歴史全体から

解放されることではなく、歴史がなかったかのように解放されることではない。自由とは、私たちの物語がイエスと私たち自身を誤解させる原因となっているやり方を再構築できることである。

詩篇139篇はこう言っています：

“主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、わがもろもろの道をことごとく知っておられます。わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます。”

詩篇 139:1-4 口語訳

デビッドは、神は細部まで知っているという事実から始めます。私たちが出入りすること。座ること、寝ること、起きること。これらは日常生活の日常的な細部です。一日の出来事です。しかし、彼は言います。あなたは遠くから私の考えを理解します...言葉が私の舌にのる前でさえ、あなたはそれをすべて知っています。いくつかの翻訳では、「あなたはそれを完全に知っています」となっています。完全に=「完全に」。最初から最後まで。言葉の完全な軌跡...「それが私の舌にのる前」。神はその考えがどのように、なぜ形成されたかを知っておられます。神はそこに至るまでの道のりをすべて見えています。メイシーズで試着室で泣いている私。女性は私が「泣いてしまっでごめんなさい。あのベルの音が嫌いなの」と言うのを聞きました。私は、彼女が家に帰ったとき、試着室の狂った女性のことを夫に言ったかもしれないと想像します。しかし、イエスは、夫を介護する長い道のりの中でその文章がどのように形成されたかを、彼が押した目覚ましボタンの音とまったく同じ音で見ました。神は私が「あの鐘は嫌い」と言うのをただ聞いているだけではありません。そのレシピを見えています。長い間、あの鐘の音とともにあった痛みと恐怖を見えています。

あなたは、自分が誰なのか、神が誰なのか、世界がどのように機能しているのかについて、自動的に頭の中に考えさせるような物語をいくつ生きてきましたか？とてもたくさんあります。神はそれらすべてを知っています。それがあなたの物語であり、神はそれをすべて知っています。完全に完全に。

“あなたは後から、前からわたしを囲み、わたしの上にみ手をおかれます。このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。これは高くて達することはできません。”

詩篇 139:5-6 口語訳

過去も過去も、現在も未来も。あなたが許せば、神はあなたの人生という本をしっかりと握っています。神はあなたが占めるタイムラインのこの小さな傷を見えています。神は未来に行き来しています。神はあなたが直面するすべての瞬間に行き来し、そこに備えをしています。あなたの物語はすでに神に知られています。これから先のページはあなたにとって暗く神秘的に見えるかもしれませんが、神はすでに知っています。

そして、私たちがコミュニティの一員になるつもりなら、理解しなければならないことがあります。今日この部屋の中には、何百万もの物語があります。その中には、はっきりと見えるものもあれば、深く埋もれているものもあります。そして、おそらく何十億もの異なるレシピがありま

す。私たちは、毎週日曜日に、自分たちの歴史のすべてをこの部屋に持ち込みます。すべての背景を見ることはできませんが、その影響を感じることもあります。ハグされても平気な人もいれば、そうでない人もいます。新しい人に自己紹介して喜んでくれる人もいますが、それが不可能だと感じる人もいます。恐れることなくお金や時間やエネルギーを与えられる人もいれば、手放すことに恐怖を感じる人もいます。母の日にすべてのお母さんを祝うのが好きな人もいれば、その瞬間を歯の根管治療のように恐れる人もいます。私たちはお互いを癒すことはできません。そうであれば素晴らしいことです。しかし、たとえそれが困難であったり、知らない、理解できないときでも、お互いの物語を優しく語り合い、愛し合うことはできます。見られたり知られたりするのが難しいと感じても、私たちは姿を現し続けることができます。私たちはお互いを愛し、寄り添い続けることができます。知られているときのみ、私たちは本当に愛されていることを体験することができます。

詩篇139篇の物語の結論はこうです：

“あなたの目は、まだできあがらないわたしのからだを見られた。わたしのためにつくられたわがよわいの日の まだ一日もなかったとき、その日はことごとくあなたの書にしるされた。神よ、あなたのもろもろのみ思いは、なんとわたしに尊いことでしょう。その全体はなんと広大なことでしょう。わたしがこれを数えようとすれば、その数は砂よりも多い。わたしが目ざめるとき、わたしはなおあなたと共にいます。”

詩篇 139:16-18 口語訳

神は私たちが未完成の状態で見えました。神の思いは誕生を通して私たちと共に旅し、このあまり優しくない世界での人生の物語へと移りました。神は毎日、すべてのページを知っていました。あなたの物語を創り出す本の言葉とフレーズを。神はあなたが従うレシピを法則のように知っています。神は知っていて、愛し、気にかけています。そして、神はあなたが灰の一部を美に書き換えるのを手伝うためにここにいます。